

軽米町百人委員会第2回しごと・観光部会議事録

○開催日時：平成29年10月23日（火） 午後6時30分～午後8時15分

○開催場所：軽米町役場3階会議室

○出席者 委員：21名中15名出席

事務局：産業振興課 高田課長、小林担当主幹、松山担当主幹、畑中補佐
再生可能エネルギー推進室 平室長
税務会計課 小笠原課長
総務課 梅木担当主幹、菅原主事

○開会

（産業振興課長） 予定の時間になりましたので、ただいまから、百人委員会第2回「しごと・観光部会」を始めさせていただきます。まず始めに、部会長から挨拶をお願いします。

（部会長） 皆さん、おぼんでございます。お足もとの悪い中、お越しいただきありがとうございます。今回第2回ということで、今回はまず自己紹介が主になったと思います。本日は交流駅の図面等を用いながら進めていただきたいと思いますと思っております。よろしくをお願いします。

（産業振興課長） ありがとうございます。続きまして、早速ですけれども協議のほうを進めさせていただきますと思います。協議の進行につきましては、会長のほうからよろしくお願いします。

（部会長） それでは、さっそく、議事に入りたいと思います。かるまい交流駅について事務局のほうからお願いします。

（産業振興課担当主幹①） ～10月現在のかるまい交流駅計画の進捗状況について説明～

（部会長） ありがとうございます。今、説明していただきましたけれども、全般について皆さんから何かありましたら、どなたか。

（委員） 私、前回もですね、そこは防災マップというものがあるのですがその中でも性格上、公民館というものは、催しものをやるためではなくて災害のための施設でもあると思います。交流駅のほうは構いません。私、隣接する者として交流駅に関してであれば人身的被害もなんとかする。公民館はそういう性格上、この場所に建設していいのか。話を覆してしまっただけで申し訳ないですが。病院がまず、川の近くで水害の被害を受けやすいところであるということですね、また、将来のことを考えればはたして？

（産業振興課担当主幹①） 9月の議会でも同じような意見が出されております。もう一度、ご説明させていただきますけれども、交流駅を建てようとしている地盤の高さは宮澤歯医者さんがあるところの堤防の高さより、90cm地盤が高くなっております。例えば、あの堤防をオーバーフローした場合でも駐車場の高さまで余裕が90cmあります。これがまず一点。あとは、いろいろな防災設備がありますので、玄関等に水の浸入を

防ぐための止水板というのがあります、簡易的なものです。これには、手動と自動のものがございすけれども、一般的には高さが 60 cm までのものが市販されています。このことについては、検討委員会でもご説明申し上げましたし、議会の一般質問に対する回答でも町長が回答いたしました。合わせると、堤防を越水した 1 m50 cm の高さまでは館内への水の浸入を防ぐための対策をしたうえで建つということを考えています。あとは、平成 11 年の大水害の際は、現在の図書館で図書の多くが水に濡れてしまったわけですが、それを防ぐために図書館は検討委員会等のほうで議論をし、不自由な点もあるかもしれませんが、財産を守るために二階に設置しようということ考えております。

もう一点につきましては議会での一般質問でもご質問をいただき、回答しておりますけれども交流駅は水害の際の避難場所とは考えておりません。指定しない方向であります。あくまでも、地震などの水害以外の際の指定場所としたいと考えております。水害等の指定避難場所につきましては、これまでのように軽米小学校、軽米中学校、町民体育館、軽米高校になります。

(部会長) それでは他にありますでしょうか。

(委員) 一案、二案、三案といろいろ建設費縮小のためにこうしてやっているとは思いますが、二階にあるトレーニングルームとは果たして必要なのでしょうか。体育館という同じような施設もあると思うのですが。体育館にあるものを充実させて利用しやすいような方向にもっていったほうが得策ではないでしょうか。

(産業振興課担当主幹①) 今のところは、若い人達からはあつたほうがいいのかという意見もありまして、図面上には載せております。今後、議会の皆様方にも第一案につきましては、9月の議会で図面等の説明をして見ていただきました。ただ、それについては住民説明会など様々な方の意見を聞きながら、最終的な決定をしていく部分であると思います。今のところは内部で検討する会議に教育委員会も入ってもらいまして、今の体育館は壁に囲まれた暗いスペースですので、こちらに持ってきて外が見えるようなところのほうが利用者が増えるのではないかと考えてもあつて、図面には載せておりますがそれらにつきましては、説明会を経て最終決定していかなければいけない部分だと考えております。

(委員) 私の意見ですが、あまり体育館の利用率が芳しくないようですよね。今まで。

(委員) 体育館は利用しに行くとは言うが、トレーニング室を利用したいという声を聞いたことがない。本当に必要なのかどうか？しかも新しい投資でですね。

(委員) 図書館があると草っぱらがあつて、白樺があつてと考えると思うのですが。

(産業振興課担当主幹①) この前の会議の最後にご説明したと思うのですが、法の縛りがありまして、合計面積は 10,000 m²以下で建設をすること。建物敷地と駐車場などすべての事業用地であること。造成工事等が終了したあと、おおむね 3 年以上経ったあとであれば、隣接した土地の開発を行っても都市計画法の基準には触れないという回答を、県庁の担当課のほうから伺っております。これについては住民の皆さんへの説明会などで、皆様のご意見等という話になりますけれども、駐車場の奥のほうを追加買収した際に小さな公園などのスペースが考えられるのかなと思っております。今の施設の周りには垣根程度、ドウダンツツジを駐車場などの区切りの部分に植栽するような程度になると考えております。

(委員) たばこの喫煙所について考えてはいないのでしょうか？喫煙所が一切ないとそ

のあたりに捨ててしまうのではないのでしょうか。

(産業振興課担当主幹①) 私も喫煙者であります。建物内の喫煙ルームというのは法律化されていくものであると思います。施設とは別のスペース等が必要ではないかと考えております。今後、詳細設計の中でどのスペースがいいか考えていきたいと思えます。施設の中の喫煙ルームではなく。

(委員) 商工会が場所をお借りすることになると思うのですが、委託や管理のことについては完了していますでしょうか。

(産業振興課担当主幹①) 詳細については決まっておられません。ただ、方針としては商工会さんのほうから交流駅内に事務室を設置するように検討してください。事務室を設けてもらった場合にはできる部分の施設の管理等については、委託業務もやっていきたいという内容の要望書をいただいております。それにつきましては指定管理制度や、その中でやる施設の部屋の貸し借りなどいろいろな部分がでてきますので、商工会さんのほうにはできる限りの委託のほうをしたいと考えており今後の検討事項でございます。

(委員) 商工会に関連した話で、事務室を一室ということの内容がよくわからない。作業を一室でまかなうということですか？

(産業振興課担当主幹①) 商工会さんの要望については移動してくるという内容だと受け取っております。事務室は専用の事務室を。それ以外の少人数でのミーティング、会議等は建物内にある会議室を使用させていただきたいと思っております。

(委員) 商工会ではどのように考えていますか？

(産業振興課担当主幹①) 商工会の内情につきましては詳しく把握していないので、まず事務室は賃貸借して、そちらに移動したいという要望で頂いておりました。

(委員) 賃貸借でその部屋をお借りするということですか。

(産業振興課担当主幹①) そういうことになります。

(委員) そして、施設管理も行うのですか？

(産業振興課担当主幹①) できる範囲内で商工会さんが受けたいという要望書のほうを頂いておりますので、開館から閉館まで、部屋の戸締りの確認、掃除等など、どういう事業をやっていくか、部屋の貸し借りの管理など、そこまでできるのかどうかをこちらでも商工会さんでも話をしていないと思うので、これから1年半をかけて商工会さんのほうと打合せをしながら決めていく形になると思います。

(委員) 商工会が使用するスペースは商工会が打合せて確保したものでしょうか。

(産業振興課担当主幹①) 今の人員のスペースとしては十分であると。あと更衣室はそのほかの役場の事務室と兼用で使う。ですが基本設計案なので、今のところ何人ぐらいが使用する事務室があればいいかということしか聞いていないです。

(委員) いちい荘の建設と火葬場の建設はいつ頃から浮上してきたのでしょうか。私は初めて聞いたのですが。

(産業振興課担当主幹①) かるまいテレビでも放映されている、9月の定例会の一般質問回答の中で、町長がやりますよという回答をしております。それ以降にどういう年度計画で建てていけるのかという検討をしている段階です。

(委員) 今までの説明を聞いていると、いちい荘や火葬場の建設が出てきたからこちらの設計建設が遅れているととれて、それは違うのではないかと思います。これだけ話が進んでいて、後からきた話のせいで遅れるというのはおかしい話だと思います。

(委員) すばらしい事業だと思いますので、今から町民に説明会をして町民の皆さんに理解してもらって、施設があるのに使っていないという事にならないような建物になって欲しい。若い人たちと年配の人たちが交流館として使うわけですから、そこに行きたいと思える建物にしてほしいので、ぜひ頑張ってもらいたい。早めにここで軽米の人たちが交流できるように進めていただければいいのかなと思います。

(委員) 先ほど、いちい荘の建設の話がでたのですが、具体的な話はまだ言えない部分があるのでしょうか。

(産業振興課担当主幹①) 9月以降の内部での打ち合わせには、産業振興課として携わっていないので詳細についてはまだです。ただ、町長の方針の中で先行して建てていきたいという考えでいるようです。

(委員) 参考になるか分かりませんが、先程のトレーニンググループがなぜ使用されないのかと、私が知り合いに質問しましたところ、施設が充実していないから使われないのだと言っていました。

(産業振興課担当主幹①) 今内部のほうで検討しているのは、役場であれば多分、対応出来ないだろうと。トレーニンググループを利用して指導していただけるインストラクターさんがいるような業者、もしそういう方がいれば、料金・参加料などトレーニンググループを使用する方々からいただいて、週に何回かやるといったことも含めて検討していきたいと思っております。そのような業者があるかないかという話から始まる話でありますので。

(委員) 山本町長のキャッチフレーズである再生可能エネルギー、これを軽米交流駅に利用する案などはないのですか。ソーラーパネル等を設置するとか。

(産業振興課担当主幹①) 概算の額は、再生可能エネルギーを利用したボイラー、冷暖房機、そのほかに電気もLED等など設置することで試算をしております。今後、詳細設計で一番効率がいいものを考えていきたい。ただ、普通のオイルヒーターは考えてはいません。

(委員) 11月8日が臨時議会で、順に説明会をしたいとありますが、今、皆さんからでた意見を含めて図面、スケジュールなどをあらかじめ町民の皆さんに配布して、座談会に入っていけたらいいのではないかと思いますのですが、何ヶ所で座談会を開く予定でしょうか。

(産業振興課担当主幹①) 今、考えているのは座談会ではなく、平日の夕方、休日の昼など、2回程度農業環境改善センターで、興味のある方に集ってもらいたいと考えております。広報お知らせ版などで、事前に皆さんにお知らせし、かるまいテレビ、防災無線でもお知らせをして行っていきたい。これらを見ていなかったという方もいらっしゃると思いますので、町長、副町長にも言われておりますが、お知らせ版と一緒に図面などを配布しながら取り組んでいきたいと思っております。

(委員) 我々の年代もそうですけれども、これから軽米町で生活していく20代・30代の方々の意見をもっと聞くべきだと感じます。先程のトレーニンググループにつきましても、二戸市の体育館のトレーニンググループはとても使われています。何かしら工夫があれば、若い人たちが使って集まってくるような形でやって頂ければと思います。あらかじめ、町民の皆さんに意見をくださいという形をとれたらいいなと思います。

(産業振興課担当主幹①) 住民説明会で直接お話をいただける方、集まれない方にもお知らせ版等々で町民の皆様方にお知らせをして、ご意見があったらご意見箱に入れて

下さいなどして意見の取りまとめをしていきたい。

(部会長) それでは時間も経過して参りましたので、まず私も検討委員会で意見・質問をだしてはおりますけれども、図面の中の細かいところは意見を頂き、変えていきたいのでそのつもりでやっていきたいと思います。以上をもってかるまい交流駅について協議を終わらせていいでしょうか。

(全員) はい。

(部会長) 次にテーマの(2)としまして地域資源を活かした産業の活性化についてですが、意見のある方いらっしゃいますでしょうか。

(委員) この前、シリアルサミットが開催され、高校生や中学生の料理コンテストを行ったわけですがけれども、あのような形で若い人たちが関わって知ること、軽米町にはもっといいものがあるとういうことを、小学校、中学校から自ら料理することで分かる部分が多いと思う。

(部会長) 軽米を褒める言葉があれば、それを活かして活性化につながると思います。皆さん、どうお考えですか。

(委員) お話に出た、シリアルサミットですが、昔の料理の作り方を教えてもらえる交流の場があればとてもありがたいと思います。途絶えてしまうかもしれない料理もあると思うので。

(部会長) 今の話は食の話でありましたけれども、食以外で何か意見があればお願いします。

(委員) 各地域の様々なものを見てきて、去年行ったイルミネーションとHIGHキュー・フォトロケーションですが、あのような規模でやったことがいいと思いますし、好評だったのではないかと。若い人たちが集まる催しなので、この流れを大いに広げていき、毎年、いろんな時期に催しを開催して各地から多くの人を招いて、そこで食の紹介をし、最終的には産業の活性化につながっていくのではないかと。交流施設等々も含めて。

(部会長) 私も去年やっているのは知っていましたが、見に行きませんでした。どなたが中心になってやっているのかな。

(委員) 現実的には町内会の方が。向川原の町内会で。

(委員) 交流人口を増やすには都会から人を呼ぶということになると思うのですが、やっぱり農産物だと思う。それから、加工品。たまに円子地区のえごま団子とか雁月とか、軽米に来たらこういうものを買っていこうとか、町外に売るという長期的な計画を立てまして、来年にはいくら、再来年にはこのくらいといった、目標を立ててほしい。それから、太陽光発電ができたあとの売電の会社は誰がやるの？

(再生可能エネルギー推進室長) 軽米ではメガソーラー事業を、小軽米フォリストパークの反対側、軽米の西山地区があり、スカイソーラーの子会社が地元のほうに合同会社をつくりまして運営しています。山内のほうは、折爪サービスエリアを挟んで、レノバという会社が主体で、開発から売電まで事業を行います。

この場をお借りして再エネ室では、起業誘致とメガソーラーの事業を進めているわけですがけれども、来月の21日ですが町民を対象とした見学会を予定しております。21日は去年の8月に売電を開始した2メガ、雪谷川ダム入り口のところの西山地区発電施設の視察を予定していますので、広報お知らせ版のほうでご案内いたしますが、ぜひとも参加していただければと思います。

(委員) 売電の会社には地元の人とか軽米の地主さんとかが参加するの？

(再生可能エネルギー推進室長) そのような参加はなしです。

(委員) 知っているのと事業が興るし、軽米にとっても良い事があると思うのだが。つまり、起業を地元の人が起こすという意味なのだが。

(再生可能エネルギー推進室長) 資本参加するにはかなりのリスクがありますので。

(委員) それから風力という話も聞きましたが、軽米には可能性がありますか。

(再生可能エネルギー推進室長) 風力は折爪岳の北側から猿越峠にかけての場所と笹渡の方のノソウケ峠、種市との境ですね、そちらのほうに計画があります。

(委員) バイオマスの発電、一戸町が行っていましたか？それはもう始まっているの？

(再生可能エネルギー推進室長) 一戸町の方は去年から始めています。軽米町は鶏糞を燃料とした(株)十文字の発電です。一戸町は木材がありますので、チップなどを活用した木質バイオマス発電です。

(委員) 木くずを圧縮して、加工して、軽米ではできないの。

(再生可能エネルギー推進室長) 木材を安定的に供給するということが難しい。全国的にみて、皆さんから聞く情報によりますと、木、木材、燃料を集めるのが大変とされています。

(委員) これは本からの受け売りなのですが、里山資本主義という本の内容をやっているとところがある。それは岡山県だ。やってみたらおもしろいのではないか。

(再生可能エネルギー推進室長) そうですね。

(産業振興課担当主幹①) 岩手県森林連合会が間に入って、補助事業を入れてつくる。なにをもっていくかという、寝かせている間伐材をそのまま腐らせないで有効活用するために行っているもので、各森林組合さんがいろんな業者さん等を巻き込んでノルマをおおむね決定して行っている。稼働率は良いようです。一戸町にあるのは、二戸地域全体を対象にしたものがたまたま一戸町にあります。あとは、最初にできたのは花巻市にありますけれども花巻市も県が間に入って行っている、そこが難しいところではないかと思えます。

(委員) 木の皮がもったいない。あれも燃料だ。冬場になると灯油代を年間、何千万も払っているだろうから。

(産業振興課担当主幹) 使い道の無かった間伐材を運搬してもって行ってやると、干せているので燃焼効率が非常に良いと、稼働率もかなりいいという話です。

(部会長) 分かるか分かんないけれども、山内にソーラーが出来れば、雇用は軽米から生まれるのかどうなのか。

(再生可能エネルギー推進室長) 9月の議会でも一般質問がありましたが、完成してからの雇用については千人規模と。町内全体からは二千人ほど。季節的には6月から9月。これについては、建友会さんや地元の企業さんを最優先にお願いをしたいということで進めております。

(委員) そうすると、太陽光発電や風力発電、バイオマス発電をやると軽米町は再生可能エネルギーの先進地になるから、やりましょう。

(再生可能エネルギー推進室長) そうですね、日本一を目指しているのですが。

(部会長) 一応意見として、これから考えてできる、できないを検討願います。

(委員) 加工品もたくさん作って東京都内にアンテナショップをつくったらどうか。今、都内に建っているアンテナショップの49パーセントが1億円ぐらいの売り上げだそうです。

(委員) それでは、軽米町でFM岩手と提携して、軽米を宣伝していますよね。毎週月曜日に軽米イズムを放送していて、それが盛岡市内だとかなり有名で、この前2回ほど材木町の夜市におじゃましたとき、多くの人が聞いていて、軽米町に来ている人が多いようです。ところが来ているけれども、軽米町が活かしていないところがあると思います。フォリストパークは毎年2回、ミレットパークに行きたいけれども行き方が分からなくて、行けなかったという人もいました。ミレットパークに行った人はとても景色が良いと。滞在したいという人もいました。宣伝はとても大事だなと感じました。軽米町に人は来ているけれども、軽米の人たちはそれを知らないことが多いと思います。あとは銀河プラザということで、岩手のアンテナショップになっていますけれども、そこに行ってもハイキューの関係でせっかくお客さんが来ているのに活用できていないと思ったので、宣伝というのはすごい力を持っていると感じました。軽米町と話せば、あれがおいしい、これがおいしいと、また食べに行きたいと思う人がいると思うので、もっと生かしていくべきだなと思ったのですが。

(委員) 活かせなかったら、応援隊を募集しよう。町の外から。

(委員) そう思います。町の人たちと違う感覚が必要かなと前から言っていましたが、洋野町では全部任せきりです。職業として、5年ほど雇用している。職に就かせることも大事ではあるが。

(産業振興課担当主幹②) 地域おこし協力隊については、昨年度から2名ほど活用したいということで募集はしております。ホームページ等を通じて、組織等を通じまして募集していますが、今のところ応募がありません。立ち止まっている状態です。2名の内訳に関しては、ミル・みるハウスですね、従業員にある程度任せておりますが、支配人のような方がいないとうまく運営していけない側面もあると思いますので、小岩井農場の部長さんとか、退職なさった人、首都圏から来る方が地域おこし協力隊の条件でありますけれども、そのような方々を募集しております。あと1名は農作業ですね。ホップなど継続できない農家さんがいらっしゃいますので、お手伝いしながら一緒に農業に携わってくれる方ということで募集していますが、なかなか応募がないという状況でございます。

(委員) よろしいでしょうか。非常にPRのしがいがある、ホップ・たばこは以外と目にする機会がありますが、そういう時期に合わせた観光というのもありますので、特にヒメボタル、軽米のほうには全部います。パンフレットにも載っていますけれども上手く活用しては。

(委員) たくさん良いところはあるのだが、それを何とかしてくれるコーディネーターを見つけてくれないと。

(委員) 私が最近思っていることは、ハイキューのブームであるときはYahoo ニュースとかで検索すると新しく舞い込んできた観光産業だと思うのですが、外から来る人がどうやって聖地にこようかとなったときに、一番手っ取り早いのはネットで検索することだと思います。先程、情報の発信が大事とありましたが、まさにそのとおりだと思います。私も実際ハイキュー!!と検索して思ったのですがまとまったハイキュー!!をPRするイベントがなくて、行った人の口コミが一番信用性があると思うのでSNSを使ったアピールの仕方を考えてほしい。そして軽米に来た人が一番困るのは、宿泊施設が少ないことだと思います。検索しても、二戸に宿泊すればいいよという口コミが出てきます。やっぱり、軽米町の中で宿泊してもらって、軽米産のものを食べてもら

うという流れができれば、もっと軽米をアピールできるのではないか。口コミが今大事だと思うので。私が考えているのは、ミレットパークのコテージがすごく良い施設だと思っていて、ミレットパークに宿泊できるように車とかを手配してくれるようなツアーをやってみたらいいのかなと思いました。

(産業振興課担当主幹②) 埼玉県などマンガを活用した地域おこしをやっているところがありますが、あれは著作権を持つ出版会社が理解をして許可しています。ハイキューの場合は集英社が過去に黒子のバスケという事件がありまして、傷害事件で起訴されて実刑判決をうけた方がいらっしゃいます。過去の事件を踏まえて、非常に許可が厳しい。ほとんど許可していません。ですから、例えば案内看板。第何巻の何頁に出てきた施設ですよとかは、行政政策で、町外から来た人の利便性をおもてなしという一環として看板をつくることは許可があれば可能ですが、そういうのは一切ダメですよ。作者が軽米町出身であることも伏せて頂きたい。ですから、例えばマンホールの蓋にハイキューの絵を描くなど面白いことは考えることはできますが、集英社さんが許可しないと出来ません。岩手県さんと一緒に何回か策を組んで交渉したりもしましたが、表立って著作権を変えるようなことは難しいという現実があります。従いまして、町外から興味を持って来られる方のおもてなしという範囲内で、様々な取り組みということに重点が今後も置いていかざるを得ないということになります。ただ、軽米町を知ってもらって交流人口を拡大、しいては地域の活性化に資するという目的は無視することは出来ませんし、そういう意味では去年からHIGH キュー・フォトロケーションとって、マンガにでた可能性のある建物とかですね、それらを巡って一番点数を取った方が優勝というようなスポーツイベントを開催しておりますし、今年はコアなお客様用ですけれどもコスプレファッションショーを企画しております、フォトロケーション、コスプレファッションショーを同日12月2日に、第3部までとしてはイルミネーション点灯式まで考えております。これは観光協会が主催となっております、その中に実行委員会というものを組織しまして、イルミネーションを実施しているわけですけれども、向川原町内会長さんに向川原の防災センター周辺が会場なので、ボランティア等で飾り付けをして頂いたというようなことであります。会長さんの負担が大きいものですから、一般町民の方、興味のある方をボランティアとしてですね、募集したいということで広報かるまいのお知らせ版にも載せることになっています。また、団体さんにもお願いして飾り付けをお願いしたいと思っております。以上です。

(産業振興課担当主幹①) ハイキューに農業体験とか地元の料理の振る舞いとか宿泊とかと関連づけていきたいという話ですよ。

(委員) SNSにも関連しますが、軽米町のホームページを見て、雑穀や軽米黒毛和牛、野菜など特産品があるのは分かるのですが、実際住んでみて軽米町で食べようと思っても食べられない。特産品などがどこで消費されているのかがホームページを見て疑問に思ったところですよ。先日、仕事の出張で住田町のほうに行ってきました。軽米町と似ているのかな町でありましたが、古民家を改修したレストランが1ヵ所駅の近くにあって、そこで、住田町で作った野菜や岩手県産の豚肉などが紹介されていてとても賑わっていました。せっかく農業が盛んな町なので、そこを町自体が消費・紹介できていないのはもったいないし残念だなと思っていて、今回交流駅ができることで町の中に人の流れができるようになるのに活用するべきではないか考えます。それこ

そ、ハイキューで来る人たちが町中でご飯を食べるときに、ホームページで見たものを食べられないとなったら損だなと思うし、結果会食しようかなと思ったときに二戸とか八戸、久慈などに流れますよね。飲食をやっている方には申し訳ないですが。せっかく良い食材があるのに寂しいという印象を私は持っていて、そういうふうな活性化につながるのには青年部会かなと思うのですが。インターネットを見ると青年部会の活動が去年から更新されていないです。聞いた話だと今月町コンがありますよね。それについての宣伝があまりされていない。人を呼べるイベントを行っているのに、それを知らない人が多いというのはすごくもったいないと思うので、宣伝力と宣伝できる場所はないのかなとすごく感じています。

(部会長) ありがとうございます。私たちもそう思います。なんとなく何をやっても宣伝をしないと何も売ることにはできないし、もっと上手な宣伝のしかたがあるのではないかと思います。

あとはどなたかいらっしゃいませんか。ないようでしたら、次回の開催日についてですが11月の中旬から下旬の間に開催いたしますのでよろしくお願いします。

(産業振興課長) その他についてはすけれども、連絡事項については特にありませんが、次回の内容につきましては今回と同じような内容を何回も繰り返していきたいと考えています。来年の末には全体の意見として町長のほうに提出して、実行できるもの、できないものを決めていきたいと思っています。ということで、本日の議事は全て終了となります。

ありがとうございます。また、よろしくお願いします。